



# 令和5年度 須坂支援学校グランドデザイン

【長野県の特別支援学校において実現すべき学びの姿】

○幼児児童生徒の可能性が最大限伸びる学び ○共生社会の実現に向けた協働の学び

## 【地域からの期待=本校の役割】

- 1 地域の子どもが地域でともに育つ教育環境の整備
- 2 特別支援教育・障がいについて地域への理解啓発
- 3 個別の指導計画を基にした個のニーズに応じた指導の充実
- 4 須坂小学校との共生と常盤中学校及び居住地校との交流及び共同学習の推進
- 5 地域における特別支援教育の「センター的機能」の充実

## 【須坂市教育大綱の基本方針】

- 多様性を認め合い、誰もが活躍できるまち
- 子どもの個性と力がのびのび育つまち
- 一人一人が学び高め合うまち

## 【学校長の願い～「明日もまた来たい」と思える学校～】

- 誰もが「自分らしさ」「その子らしさ」を大切に、多様性を包み込む学校・地域
- どの子ども、自分から、自分で、持てる力を精一杯発揮して活動し、満足感と自己の成長を感じられる生活のある学校

## 【本校の教育方針】

- 1 すべての子どもの人権が尊重され、子どもが主体となり自分の持てる力を精一杯発揮できる学校生活づくりを進める。
- 2 一人一人の障がいの状態、発達段階及び特性や教育的ニーズを踏まえ、個別の指導計画を基にした授業改善を進める。
- 3 「障がいのある子ども障がいのない子ども、地域の子どもは地域で育てる」という地域の思いを受け、併設の須坂小学校・隣接する常盤中学校との共生・共育を推進するとともに、副学籍校(居住地校)との交流及び共同学習を充実させ、共生社会を主体的に生きる子どもの育成をめざす。
- 4 保護者や地域との連携を大切に、在学中から卒業後までを見通して、子どもの生活環境を整えることや支援体制の構築をめざす。

## 【学校教育目標】

自分の力を精一杯発揮しながら、仲間とともに地域で心豊かに生きる子どもの育成  
**<めざす子どもの姿> 「自分から、自分で、せいっぱい」自分らしく輝く子ども**

## 重点的な取組

### ○「自分から、自分で、せいっぱい」につながる生活づくり・授業改善

- ① 個別の指導計画を基にした指導と評価
- ② 子どもが主体的に活動する生活単元学習の追究
- ③ ICT 機器の有効活用による個に応じた学びの充実

### ○つながりを作り見通しがもてるキャリア教育

- ① 小学部と中学部の連携(見学・体験・合同授業)、全校でつながる活動(レインボータイム)
- ② 長野養護学校高等部すざか分教室との連携強化
- ③ 職員・保護者の地域の事業所等の見学・研修の実施

### ○特別支援教育のセンター的機能の発揮

- ① 教育相談機能の充実(教育相談、巡回相談支援)
- ② 小中学校の特別支援教育の専門性向上への協力(研修、発信)

### ○教職員の専門性向上への取組

- ① 学び続け、専門性を高める教職員研修
  - ・確かな子ども理解と人権感覚の研磨
  - ・障がい特性の理解とニーズに応じた適切な支援(ICT・行動支援ブロックリーダーの活用)
- ② 専門性サポートチームを中核とした日常的に担任を支える体制づくり、チーム・ティーチングの機能強化
- ③ 学校評価を真摯に受け止め、授業改善・学校づくりに生かす

### ○多様性を認め合い、インクルーシブな社会の実現に向けた取組

- ① 共に学び、互いのよさを発揮し合い、理解を深める交流及び共同学習
  - ・須坂小学校との日常生活・合同行事での交流を通じた相互理解の促進
  - ・常盤中との交流の充実
  - ・副学籍校(居住地校)との交流の充実
- ② 地域交流の広がり
  - ・地域の「ひと・もの・こと」とつながる生活単元学習、作業学習、校内実習
  - ・ぶれジョブの推進協力
  - ・学校ボランティアの拡大
- ③ 地域への発信
  - ・学校関係者連絡会、学校公開の実施
  - ・学校だより、HP等での積極的な発信
  - ・地域への啓発活動

### ○家庭・地域との連携強化による支援の充実

- ① 家庭との丁寧な情報共有と対話
- ② 地域資源(医療・福祉・行政)と連携した支援会議、関係者会議